

# 奈良新聞

NARA NEWS PAPER

〒630-8686 奈良市法華寺町2番地4 電話(0742)32-1000(代)  
発行所 奈良新聞社 ©奈良新聞社 2014

本社	社(ダイヤルイン)0742-	中南和支社
総務課	経理課 32-2111	0744-29-1144(代)
営業課	32-2112	
編集部	32-2113	大阪支社
各務課	32-2114	06-6211-2797(代)
シニア事務局	32-2115	
文化事業課	32-2116	東京支社
販売課	32-2117	03-5565-0031(代)
文庫	32-2118	
電子版		

www.nara-np.co.jp

不動産情報求む!  
事業用不動産即金買取  
(5億円迄)

奈良県知事(1) 課4025号  
代表者 富宅 勲  
TEL.0742-48-7800 FAX.0742-48-7801  
E-mail:fk7800@iaa.itkeeper.ne.jp

## 飛鳥

飛鳥地方をPRする動画ができました!

河瀬直美監督が飛鳥地方をご案内します。

## 玉置神社ご神木

# 着生木伐採、嘆く地元

## 樹勢回復のため 宮司

## 言い伝えに背く氏子

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に含まれる十津川村玉置川の玉置神社(弓場孝彦宮司)で昨年11月、神木・神代杉(県天然記念物)の表面に根を下ろしていた約10本の着生木が切り落とされ、氏子から失意の声が上がっている。超党派でつくる世界遺産国会議員連盟(馬淵澄夫代表)は、世界遺産保全に関わる問題とみて調査を始め、17日、現地を視察した。

## 世界遺産国会議連が調査



着生木が切り落とされた神木の神代杉を調査する玉置特別顧問(左)ら  
17日、十津川村玉置川の玉置神社

神代杉は推定樹齢3千年といわれ、幹回り約8m、高さ約20m。リョウブやハゼが着生木として育っていた。

平成24年度に県教委が日本樹木医会県支部に委託して実施した診断で、着生木が樹勢の衰えの一因とされ、神社は昨年11月、着生木を全て切り落とした。事業費の2分の1、約33万円を県が補助した。

神代杉に宿った生命

全体を神木と捉える考え方があり、同村玉置川の工芸作家、原秀雄さん(64)は「多種類の木を抱いて生きる姿は人類の共存共栄を教えてくれた。あるがままの自然こそ熊野信仰の象徴だった」と落胆した。

村内では「御神木は切ってはならない」と言い伝えられているため、着生木の除去を知った村民は震え上がった。

昭和20年代から玉置神社の神子(みこ)を務めた同村神下、嶋本三雄さん(88)は「昔の宮司は境内の一本も切らず大切に。迷信と笑われるかもしれないが、一帯は神さまの遊び場だから木を切ってはいけない」と嘆く。原さんらは住民団体「奥熊野・玉置の世界

遺産を守る会」を立ち上げ、「歴史文化を次世代に伝えるという世界遺産の精神にそわない行為。議論もなかった」と憤慨。5日間で約740人のインターネット署名を集めて世界遺産国会議員連盟に訴えた。

公良特別顧問(59)は「和歌山県が現地を訪れ、弓場宮司から話を聞いた。同行した伊賀市の樹木医森田田一さん(39)は「着生木が果たしていた直射日光や風雪を和らげる効果がなく、過乾燥で白化している」と悪影響を指摘。同席した原

さんは「氏子総代会(10人)でも事前に協議されず、一部の判断で伐採が行われたことは重要な問題」と訴えた。

奈良新聞社の取材に弓場宮司(71)は「樹勢回復のため専門家の意見を聞き、村や県、3人の責任役員と相談

しながらやっている」と説明した。県教委文化財保存課は「天然記念物のスキの樹勢回復が目的。木を守り、参道を歩く人の危険も避けなければならぬ。神社として意見がまとまっている」と疑わなかったと話し、文化庁への申し入れも視野に検討する方針

玉置特別顧問は「着生木の伐採は不適切ではなかったか、精査する必要がある。世界遺産の意義と保全に対する関係者の認識は低い」と言わざるを得ない。この見解を示し、文化